

付録 次の文章〔1〕～〔3〕を読み、(a)～(t)の問いに答えよ。なお、史料は読みやすく改めている箇所がある。

〔1〕 11世紀後半以降、朝廷では白河・鳥羽・後白河の3上皇が、天皇家の家長として院政を行い、膨大な天皇家領荘園群の集積などを通じて経済的基盤を確立し、法にとらわれない専制的な政治を行った。上皇は、受領層を支持勢力に取り込むとともに、武士を に任じて院の御所の警備にあたらせ、南都北嶺の僧兵の強訴などに対抗するため武家の棟梁を側近にするなど、権力を強化していった。しかし、^①保元・平治の乱で、貴族社会の内部の争いが武士の実力で解決された結果、中央政界における武士の地位は上昇し、なかでも^②後白河天皇(上皇)を武力で支えて2つの乱に勝利した平清盛は急速に勢力を強め、最初の武家政権である平氏政権を樹立した。

治承・寿永の乱で平氏が滅亡し、東国に鎌倉幕府が成立したが、その後も朝廷は、全国の一般行政を統轄し、西国を中心に勢力を維持していた。しかし、後鳥羽上皇が幕府打倒をはかって承久の乱を起し、敗北すると状況は一変した。幕府は^③皇位の継承に介入するとともに、京都に新たに六波羅探題を置いて朝廷の監視と西国の訴訟審理などにあたらせた。乱後も朝廷では院政が行われたが、優位に立った幕府は、皇位継承や朝廷の政治にも干渉するようになった。

1242年に幕府の意向により即位し、その後院政を行った 上皇は、幕府による朝廷の政治刷新と制度改革の要求を受け入れて、院政の最高議決機関として評定衆を設置し、朝幕間の連絡調整にあたる関東申次の制度を整えた。この時期、幕府は朝廷内部に深く影響力をもつようになり、幕府優位の協調関係が築かれていた。

上皇の死後、天皇家は^④大覚寺統と持明院統に分裂し、皇位継承や天皇家領荘園などをめぐって争い、両統ともに幕府に働きかけ有利な立場を得ようとした。幕府は両統迭立を提示したが、大覚寺統から即位した後醍醐天皇は、こうした状況に不満を抱いて討幕計画を進め、やがて反幕

府勢力を結集して幕府を打倒した。⑤ 後醍醐天皇は、公武一統の政権をめざして親政を行ったが、 天皇中心の新政策は多くの不満と抵抗を引きおこし、また政務の停滞や社会の混乱も招いて政権は瓦解し、その後、朝廷は南朝と北朝に分裂することとなった。

(a) 空欄 にあてはまる、もっとも適当な語句を答えよ。

(b) 下線部①に関連して、保元の乱後の武士の台頭を、ある歴史書は「鳥羽院ウセサセ給ヒテ後、日本国ノ乱逆ト云コトハヲコリテ後、ムサノ世ニナリニケル也」と記している。鎌倉時代に、撰関家出身の天台座主が著したこの歴史書の名称を答えよ。

(c) 下線部②に関連して、1164年、後白河上皇の発願をうけた平清盛によって造営され、1001体の千手観音像などが安置されていることでも知られる寺院の名称を答えよ。

(d) 下線部③に関連して、承久の乱の直後に即位した天皇の名を答えよ。

(e) 空欄 にあてはまる、もっとも適当な上皇の名を答えよ。

(f) 下線部④に関連して、この皇統に伝領された、鳥羽上皇が皇女暲子内親王に伝えた所領を起源とする荘園群の名称を答えよ。

(g) 下線部⑤に関連して、この時設置された、諸国の所領裁判を管轄する政治機関としてもっとも適当なものを下から一つ選び、記号で答えよ。

㊶ 記録所 ㊷ 雑訴決断所 ㊸ 引付 ㊹ 恩賞方

[2] 南北朝統一を果たし、公武にまたがる最高権力者として君臨した足利義満の死後、やがて朝幕関係に転機が訪れた。永享の乱に際し、鎌倉公方足利持氏の謀叛に手を焼いた將軍足利義教は、持氏を朝敵として征伐する綸旨の発給を朝廷に奏請した。ここに、義満期以来の「綸旨なき内乱鎮圧」という室町幕府の建前が崩壊したのである。⑥ 嘉吉の乱に際しても幕府は朝廷に征伐の綸旨の発給を要請し、 以後、幕府権威の低下にともない天皇の綸旨が頻発されるようになった。また天皇の官位叙任権も、介在する幕

府が弱体化したため、復活していった。

戦国期に入ると、戦国大名の間に、敵対する大名を征伐するための論旨を得て戦いを有利に進めようとしたり、朝廷の官位を得ることで領国支配の正当性を示そうとしたりする動きが顕著となった。こうした動きは、必然的に官位叙任権をもつ天皇の権威を高めていくことになった。

豊臣秀吉は、小牧・長久手の戦いが和睦に終わったことを機に、軍事力のみでなく伝統的権威を利用しながら全国統一をめざすようになった。関白に任じられた秀吉は、天皇から支配を委ねられたと称して全国の戦国大名に停戦を命じ、違反者の処罰を名目に統一を進めるとともに、平安京大内裏跡に新築した C に後陽成天皇を招いて諸大名に天皇と秀吉への忠誠を誓わせるなど、天皇の権威を大名統制に利用しようとした。

徳川家康も、天皇から征夷大將軍の宣下を受けることで全国の大名に対する指揮権の正当性を得ようとするなど、天皇権威を利用して江戸幕府の権威を高めようとした。しかし一方で、1615年に禁中並公家諸法度を制定して天皇が政治に関与することを禁じるとともに、天皇が保持していた官位叙任権のうち、武家への任命は実質的に幕府の権限とし、天皇の行為に大幅な制限を加えた。さらに幕府は、京都所司代を置いて朝廷を監視させるなど、^⑦ 様々な朝廷統制を行った。1627年、幕府は、後水尾天皇が大徳寺の僧侶などに D の着用を幕府に許可なく勅許したことを禁中並公家諸法度に違反しているとして問題にし、これに抗議した僧侶らを処罰した。この事件によって、幕府の法度が天皇の勅許に優越することが明示されることになり、幕府による朝廷統制の基本的枠組みが確立した。

その後、幕府政治が安定するなか、^⑧ 5代将軍徳川綱吉の時代になると、忠孝の重視や礼儀による秩序維持をはかる上から、天皇・朝廷に対して融和路線がとられるようになり、朝廷と幕府の協調関係が築かれることとなった。

(h) 下線部⑥に関連して、この時幕府が天皇から諭旨を得て征伐しようとした守護は誰か。その人物の名を答えよ。

(i) 空欄 **C** にあてはまる、もっとも適当な語句を答えよ。

(j) 下線部⑦に関連して、幕府の奏請を朝廷に取り次ぐための役職が朝廷側に置かれた。公家から2人選ばれ幕府から役料をうけていた、この役職の名称を答えよ。

(k) 空欄 **D** にあてはまる、もっとも適当な語句を答えよ。

(l) 下線部⑧に関連して、5代将軍徳川綱吉の時代の朝廷政策として適当でないものを下から一つ選び、記号で答えよ。

㉞ 大嘗祭の再興

㉟ 賀茂葵祭の再興

㊱ 禁裏御料の加増

㊲ 閑院宮家の創設

[3] 1789年、朝廷は **E** 天皇の実父である典仁親王に太上天皇の尊号を贈ることを幕府に願い出たが、老中松平定信は皇位についていない者に尊号を贈る道理はないとしてこれを拒否し、翌年、関与した公家を処罰した。この事件を尊号一件とよび、これを契機に安定していた朝幕間の協調関係は崩れだした。

折しも18世紀末から19世紀前半にかけて、[㉠]ロシアやイギリス・アメリカなどの欧米諸国の船が日本近海に現れるなど対外情勢は大きく変動し、国内では天保の飢饉により一揆や打ちこわしが続発するなど、[㉡]「内憂と外患」によって幕藩体制は危機を迎えた。こうした危機的状況を背景に、弱体化した幕府権力にかわる上位の権威としての天皇・朝廷が求められ始め、天皇を君主として尊崇する尊王論が高まった。従来は幕府支配の正当性を強化するために、天皇が日本を支配する権限をもち将軍にそれを委ねているという **F** 論の立場が唱えられていたが、幕府の弱体化にともない、これは天皇・朝廷の権威を高めることになった。

19世紀半ば、アメリカからの強硬な要請をうけて、幕府が **G** 天皇の勅許を待たずに通商条約に調印したことは、尊王や攘夷を唱える武士た

ちによる幕府批判を高揚させた。その後、幕府は、朝廷との融和によって
反対派をおさえ、政権を安定させようとしたが、この強引な公武合体の政
策により、幕府への非難はますます高まっていった。こうした事態のなか、
天皇の権威は一層浮上し、尊王攘夷論は倒幕運動の原動力となった。幕
府は失墜した権威回復のために、倒幕派はその行動を正当化するために、
それぞれ天皇の権威を利用しようとした。1867年、倒幕派の機先を制して
将軍徳川慶喜が大政奉還を上表すると、薩摩・長州藩などの倒幕派は政局
の主導権を握るため朝廷内でクーデタを執行し、王政復古の大号令をだ
した。ここに新政府が樹立され、天皇を頂点とする政治体制の創出がめざ
されることとなった。

(m) 空欄 にあてはまる、もっとも適当な天皇の名を答えよ。

(n) 下線部⑨に関連して、ロシア使節ラクスマンにとりなわれ帰国した大
黒屋光太夫は、のちにロシアでの体験について語っており、それは桂川
甫周により記録書としてまとめられた。その書名としてもっとも適当な
ものを下から一つ選び、記号で答えよ。

㉑ 『環海異聞』

㉒ 『日本幽囚記』

㉓ 『北槎聞略』

㉔ 『漂異紀略』

(o) 下線部⑩に関連して、こうした状況に際し、1838年、水戸藩主徳川齊
昭は幕政改革を要求した書を著し、翌年幕府に提出した。この上書を一
般に何とよぶか答えよ。

(p) 空欄 にあてはまる、もっとも適当な語句を答えよ。

(q) 空欄 にあてはまる、もっとも適当な天皇の名を答えよ。

(r) 下線部⑪に関連して、将軍徳川家茂の妻として朝廷から和宮を迎える
準備をすすめるなど、公武合体に尽力した老中としてもっとも適当なも
のを下から一つ選び、記号で答えよ。

㉕ 阿部正弘

㉖ 安藤信正

㉗ 井伊直弼

㉘ 堀田正睦

(s) 下線部⑫に関連して、著書『新論』で天皇を頂点に位置づける国体論と尊王攘夷論を提示し、後期水戸学を理論的に確立し、幕末の尊王攘夷運動に影響を与えた水戸藩の学者の名を答えよ。

(t) 下線部⑬に関連して、以下の史料は「王政復古の大号令」の一部である。空欄にあてはまる最も適切な語句を答えよ。

徳川内府、従前御委任ノ大政返上、將軍職辞退ノ兩条、今般断然聞シメサレ候、(中略)之ニ依リ、叡慮ヲ決セラレ、王政復古、国威挽回ノ御基立テサセラレ候間、自今撰関、幕府等廢絶、即今先ス仮ニ 、議定、参与ノ三職ヲ置カレ、万機行ハセラルヘシ。